

芦屋川を舞台にした環境学習 － 芦屋川探検隊！ －

大脇 巧己（NPO法人さんびいす 芦屋川探検隊の子どもたち）

■活動目的

近年の子ども達（特に児童）は、メディアの発達により以前の子ども達に比べはるかに多くの環境に関する単語を知っている。しかしこれらはメディアから発せられた言葉を単に知っているだけであったり、学校で行われる環境学習の授業の中で知識として教えられた事がほとんどであり、実生活の中で自らが直接身近な自然に触れ、感じ、興味・関心を持つ機会是非常に少なくなっている。この為、せっかく得た知識も生活の中で活かせる知恵に変える事がなかなか出来ず、自ら興味関心を抱き、知らないことを知る楽しさ（＝自発的な学び）を経験する機会も減っている。そこで、私どもNPO法人は、子ども達にとって身近な近隣地域の自然や地域の大人との交流を通し、自ら学ぶ楽しさを少しでも多くの子ども達に伝えるために、本活動を企画・実施している。

■活動概要

芦屋川探検隊とは、兵庫県芦屋市の中心部を流れる芦屋川を使った環境学習活動であり、昨年（平成17年度）から活動を開始し、今年が2年目にあたる。昨年度は、市内在住の児童と保護者50名により計6回の活動を行なったが、今年度は参加者を市内から近隣地域に広げ、100名の児童とその保護者、ボランティアで活動を支援くださるスタッフも含めると総勢130名で計11回（6月より毎月1回：8月のみ2回）の活動を計画して行なった。



昨年度は、初回という事もあり、芦屋川の水生生物の調査、その際採取した生物の封入標本作り、そして成果発表会とどちらかと言えば単発のイベント的要素が強い活動だったが、今年度は、芦屋川に生息し降河回遊性を持つモクズガニに着目し、モクズガニが河口から芦屋川上流部まで遡上するための手助け（堰堤に縄梯子を設置し、川を観察し、より遡上しやすい川について考える）を行なうというメインテーマを掲げ、子ども達の興味関心を高めつつ、カニやそこに住む生き物の目線で芦屋川を観察させる事で、これまでは無い視点で物を見つめ・自ら考え・答えを導き出していくといった、論理的思考を育む学習活動の要素を増やした活動となった。その結果、今年度は子ども達が自ら観察し、撮影した写真などを元に、芦屋川の観察マップを完成させる事が出来た。

■活動の進め方と狙い

各回の活動の詳細は、次頁に表でまとめているが、探検隊に参加した子ども達は、下記①～⑤の順に従い自然との触れ合いを行なうことで、自らの考えを持ち、確立し、自発的に活動する事の楽しさを体験する。

- ①モクズガニの生態や習性、芦屋川の自然を専門家から学ぶ（知識）



- ②モクズガニが登りやすい橋とはどんな物かを考え、自分たちで考えた縄梯子を作り、川に設置（仮説）(実施)
- ③芦屋川をカニや魚など生き物の目線に立って観察し、今後どのような川に変えていきたいかを考える（検証）（再考）
- ④活動の成果をまとめ、共生のひろばや芦屋市内で発表会を通し多くの市民に伝える（情報発信）
- ⑤今後どのような活動を行いたいかを考える（継続）（発展）

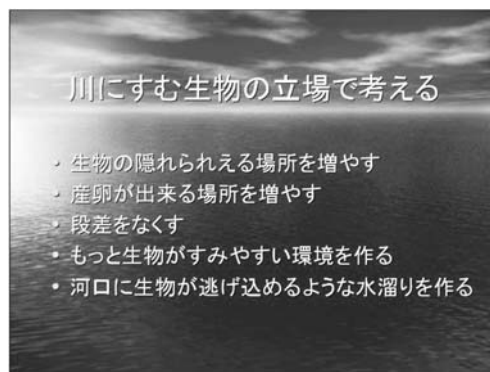
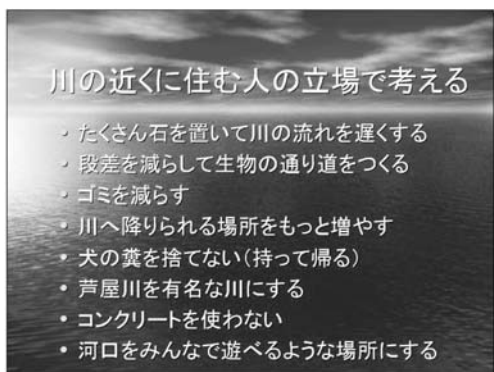
■活動スケジュールと結果

日 程		活動テーマ / 実施結果
第1回	6月11日（日）	モクズガニの生態を学び、芦屋川河口付近でモクズガニの産卵を確認しよう 芦屋川河口にてモクズガニの稚ガニ、他のカニ（ガザミなど）やウナギの稚魚、カブトエビの死骸などを発見。  
第2回	7月15日（土）	芦屋川上流で、モクズガニや他の水生生物についても調べてみよう 芦屋川上流部で水生昆虫や魚、モクズガニの調査を実施。20種類以上の生物を発見。中には今年遡上してきたモクズガニや大きなドンコも。
第3回	8月6日（日）	堰堤に設置するモクズガニの遡上を助ける橋をみんなで作り設置しよう 市民センター前の堰堤（高さ3m）に麻ロープを使った縄梯子をグループ単位で5つ作り設置。  
第4回	8月24日（木）	夏休みの間にそれぞれが調べたり、発見した事をみんなに教えてあげよう（博物館の先生からアドバイスももらえるよ） これまでの活動の振り返りと、6日に設置した橋の観察を行なった。橋は黒く変色し、触るとヌルヌルしていた。また表面は黒いが中は麻本来の色を残した部分もあり、単なるゴミや水に濡れた為ではないことがわかった。
第5回	9月23日（祝土）	みんなで設置した橋の利用状況を調べたり、これまでの活動でわかった事などについて、みんなで考えよう 芦屋川の中流～河口までを歩いて観察。川の水位、流れの速さ、堰堤の形や植物の有無などと、魚の有無、数などを比較しながら観察を行なった。
第6回	10月22日（日）	モクズガニの気持ちになって川を観察し、少しでもカニ達が遡上しやすい川になる為のアイデアをみんなで考えてみよう デジカメ、スケッチブックなどを使い、芦屋川の本格的調査を班毎に分かれて実施。調査データをもとに次回以降、芦屋川マップを作成する。
第7回	11月12日（日）	岐阜県の長良川で長年自然保護活動を行なっている写真家の新村先生をお招きし、他の地域での取り組みや生物の生態についてお話を聞こう 芦屋川や長良川で撮影された鮎やモクズガニの水中での様子を見せてもらいながら、生物や自然の関係、生と死についても学んだ。 
第8回	12月17日（日）	これまでの活動のまとめ。芦屋川マップを完成させよう 5・6回の観察会で得られた情報をもとに、芦屋川マップを作成した。また、今後どのような川にしていきたいかの発表も行った。 
第9回	1月21日（日）	今年度の活動全体を振り返りと、今後の活動を考えよう 参加者全員で、今年度の活動全体を振り返り、①楽しかった事 ②この活動でわかった事 ③今後、探検隊の活動でやってみたいことなどを考え発表してもらった。
第10回	2月11日（日）	兵庫県立人と自然の博物館の「共生のひろば」で、活動成果の発表をしよう！ めざせ河合雅夫名誉館長賞！！ 「共生のひろば」において、今年度の活動成果をみんなに聞いてもらいました。みんなで作った芦屋川環境マップも展示しました。
第11回	3月11日（日）	今年度の活動成果を、芦屋に住む多くの人に聞いてもらおう（芦屋市での発表会） 芦屋市のラポルテホールにて、今年度の活動の発表会を実施。保護者や地域の皆さんに、活動で得た成果を発表しました。

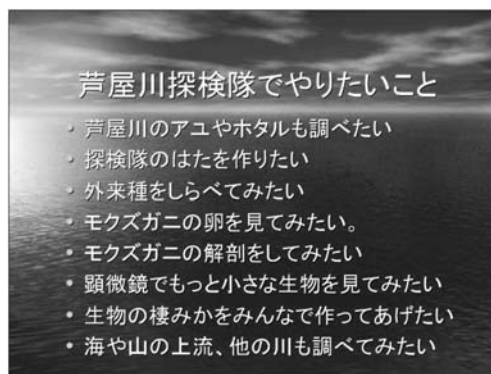
■活動参加者が出した答え

活動当初は、水生生物を触ることにすら抵抗を感じていた低学年の子ども達もいたが、次第に未知の恐怖が楽しさに変わり、ちょっとした勇気を出せばその楽しさが更に増える事に気づくと子ども達の好奇心は一気に加速した。そんな参加者（児童）が出した答えがこれである。

みんなの芦屋川をどんな川にしていきたいか



今後、芦屋川探検隊でやりたいこと



■活動成果と今後の課題

昨年度の活動（全5回）が、自然に興味関心を持たせるイベント的な活動だったのに対し、今年度は活動回数を倍に増やし、1つの方向性でじっくり考える事に力を入れた。その結果、当初から継続して参加してくれた子ども達の中には、モクズガニの遡上を助け、単に個体数を増やすことだけが環境保護ではなく、生態系のバランスをとり、その中には我々人間も含めた様々な生き物が関わりを持っている事に気づき、その事を口にする子もいた。

しかし、実際毎月1回の活動を続ける場合、この活動以外の日常の活動（少年スポーツの大会や地域での行事など）と重なり継続的な参加が出来ない人や、理由なしの無断欠席者の数も目立つなど、長期に渡る継続的な活動への参加者確保の難しさも実感した。

来年度以降は、もう少し参加者を絞った形で、活動の場を、芦屋川だけでなく河口付近の海や上流部の六甲山へと広げ、ゼロ・エミッションの考え方も取り入れた環境学習へと更に発展させていきたい。

最後に、本活動中にGISを使った芦屋市ならびに近隣地域の観察結果をWEB上で収集しデータベースとして活用可能なサイトを立ち上げたのでぜひ、皆さんもご活用下さい。

芦屋の自然みつけた

<http://be2.sanps.com/gis/index.htm>

